

企業短期経済観測調査（道北^{*}地域分）
（調査対象企業：道北^{*}43社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
()内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2017/6月	9月	12月	2018/3月	6月	9月	2018/12月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	19	20	19	14	25	(11) 21	7
うち製造業	50	60	40	0	30	(20) 33	33
非製造業	11	8	14	18	23	(9) 18	0
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲7	▲2	0	▲5	▲2	(▲5) ▲10	▲14
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲6	▲3	▲6	▲6	▲9	▲7	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲9	▲9	▲9	▲5	▲7	(▲5) ▲9	▲12
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲45	▲40	▲40	▲41	▲45	(▲50) ▲49	▲58
資金繰り < 楽である - 苦しい >	6	10	15	14	18	23	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	25	23	33	31	33	29	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲7	▲2	4	8	▲3	(10) 0	10
販売価格 < 上昇 - 下落 >	0	2	▲7	2	11	(0) 4	3
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	28	17	25	33	44	(44) 48	43

(注) 「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2018/12月までの予測」は調査対象外。

(事業計画)

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画					
			上期		下期			
売上高	+0.9	+3.3	-4.7	< +1.1 >	-0.1	< +1.8 >	-8.6	< +0.5 >
経常利益	+44.1	-3.7	-37.8	< +2.4 >	-33.8	< +5.1 >	-42.9	< -1.4 >
当期純利益	+49.0	+16.4	-40.7	< -2.8 >	-37.7	< -5.6 >	-45.6	< +2.6 >
設備投資額	+0.6	+75.7	-50.8	< +38.0 >	-56.8	< +20.4 >	-43.1	< +61.1 >

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2018年9月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 43 社（製造業 9 社、非製造業 34 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 43 社）
- 回答期間：2018年8月27日～9月28日

1. 業況判断 DI

- 9月の業況判断 DI（全産業ベース）は+21。前回6月調査に比べて悪化した（前回+25、前回比▲4ポイント）。
 - 製造業の業況判断 DI は+33（前回+30、前回比+3ポイント）。
 - 非製造業の業況判断 DI は+18。建設関連や卸・小売などで悪化したことから、前回調査比悪化した（前回+23、前回比▲5ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を予測（2018年12月までの予測：+21⇒+7）。
 - 製造業は、横這いの見込み（+33⇒+33）。
 - 非製造業は、卸・小売の一部で改善を見込むものの、建設関連や運輸などで悪化を見込む先が多いことから、全体では大きく悪化する見込み（+18⇒±0）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超過－供給超過〉」（▲2⇒▲10）は、建設関連や宿泊・飲食サービスなどで需給の逼迫感が緩和し、供給超幅が拡大した。先行きは建設関連のほか卸・小売でも供給の超過を見込む先がみられることから、全体でも供給超幅がさらに拡大する予測（⇒▲14）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（▲9⇒▲7）は、食料品や卸・小売の一部を中心に不足超幅が縮小した。
- 「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（▲7⇒▲9）は、運輸で過剰感を解消した先があり、不足超幅が小幅拡大。先行きは建設関連や卸・小売を中心に不足超幅が拡大する見通し（⇒▲12）。
- 「雇人員判断 DI〈過剰－不足〉」（▲45⇒▲49）は、引続き幅広い業種で不足と回答する先がみられ、不足超幅が拡大した。先行きも、不足と回答する先がさらに増え、不足超幅が一段と拡大する見通し（⇒▲58）。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、金融機関の貸出態度は「緩い」超幅を縮小させた（「金融機関の貸出態度判断 DI<緩いー厳しい>」：+33⇒+29）ほか、借入金利水準も「上昇」と回答する先が増え低下超を解消した（「借入金利水準判断 DI<上昇ー低下>」：▲3⇒±0）ものの、資金繰りは「苦しい」と回答する先が減る中、「楽である」と回答する先が増え、「楽である」超幅が拡大している（「資金繰り判断 DI<楽であるー苦しい>」：+18⇒+23）。
- 「仕入価格判断 DI<上昇ー下落>」（+44⇒+48）は、卸・小売や宿泊・飲食サービスなどで「上昇」が増え、上昇超幅がさらに拡大したが、先行きは卸・小売で上昇一服となる見込みから、上昇超幅は縮小する見込み（⇒+43）。
「販売価格判断 DI<上昇ー下落>」（+11⇒+4）は、木材・木製品のほか、建設関連や運輸などを中心に値上げ後、横這いとする先がみられ、上昇超幅は縮小。先行きは、食料品や卸・小売で需要の慎重化や競合激化等を懸念し、下落超となることから、全体でも上昇超幅がさらに縮小する見込み（⇒+3）。

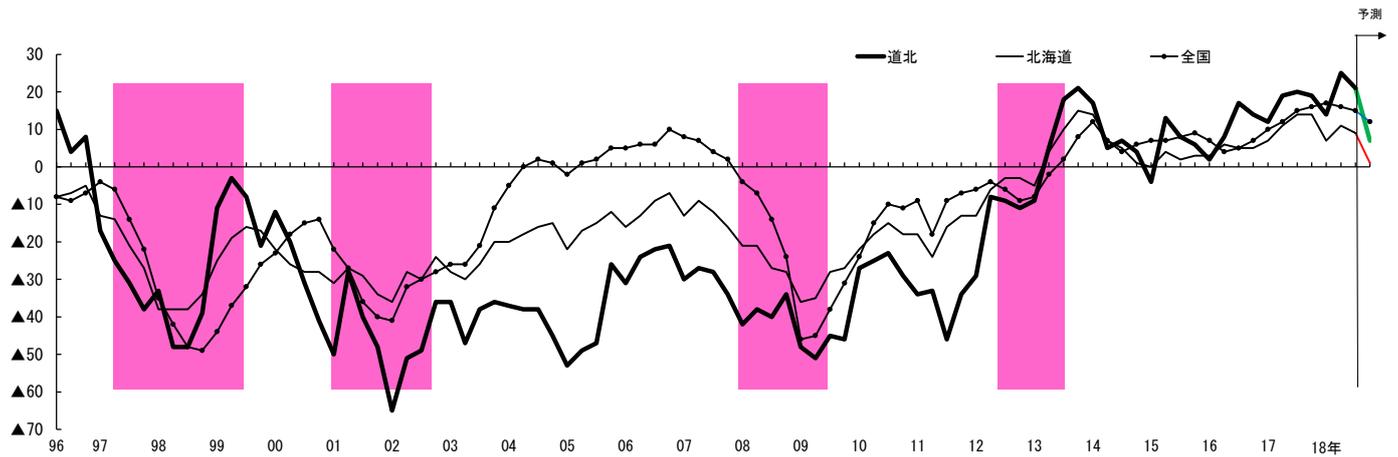
3. 事業計画

- 2018年度の計画は、売上高は前年度比▲4.7%、経常利益は同▲37.8%、当期純利益は同▲40.7%、設備投資額は同▲50.8%となっている。当期純利益は前回調査比下方修正されたが、売上高、経常利益、設備投資額は上方修正されている。

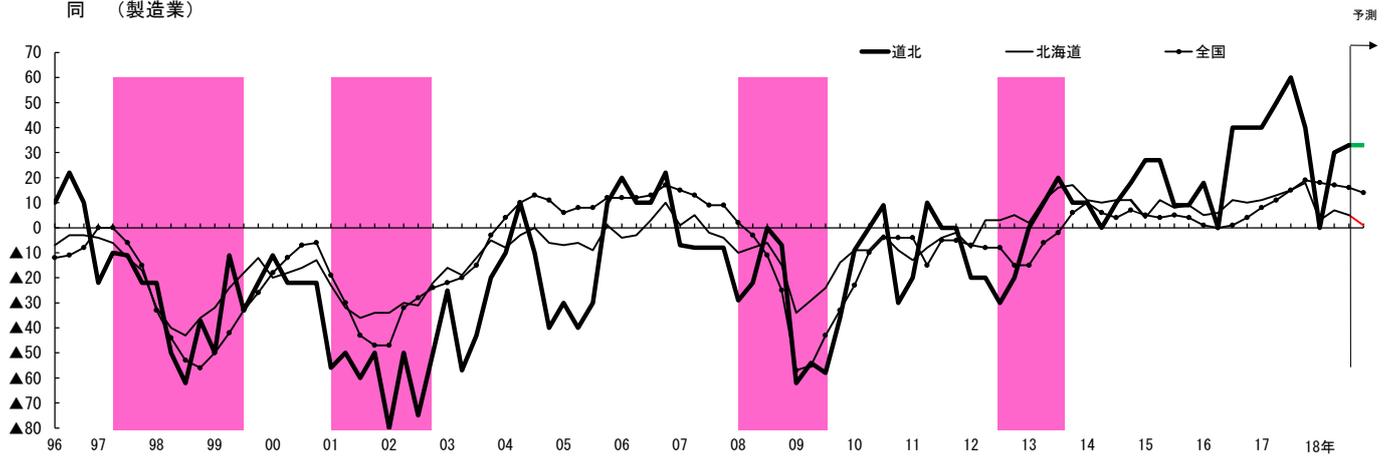
以 上

2018年9月短観・調査結果

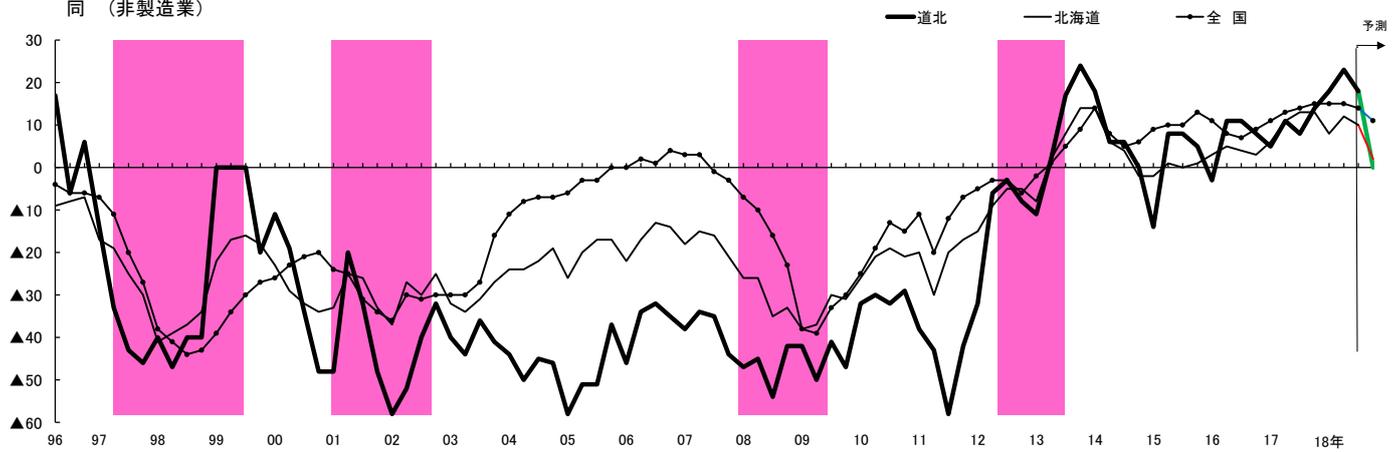
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

全国、北海道は2017/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2017/12月以降は見直し後の新ベース。

ピンクシャドーは景気後退期（内閣府調べ）